

福井創生にキャリア教育力を！

マッチング機能を付加したキャリア教育システムの確立を！

～学力、体力、志力の福井県へ～

平成 27 年 3 月

福井商工会議所 青年部

公益社団法人 福井青年会議所

福 井 経 済 同 友 会

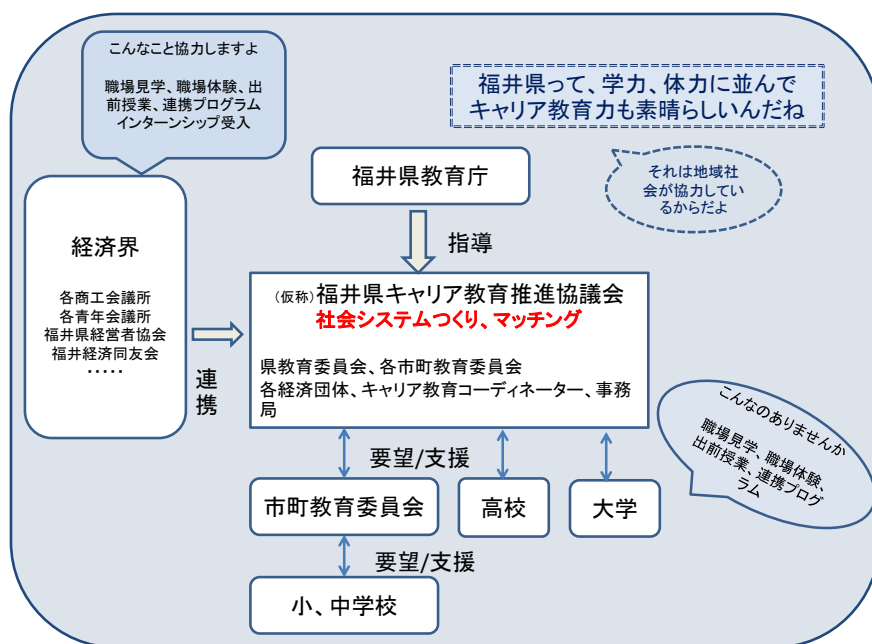
目 次

福井創生にキャリア教育力を！

マッチング機能を付加したキャリア教育システムの確立を！

～学力、体力、志力の福井県へ～

	ページ
はじめに	1
I 現状認識	2
1. 従来型のキャリア教育	2
2. 各経済団体の試み	4
II 本来あるべきキャリア教育の姿	9
III 提言	12
1. 県主導での「福井県キャリア教育推進協議会」の設置	12
2. 企業のエントリーシートや生徒の報告シートに見える化	16
IV 結びに	17
V 活動経過	20



はじめに

少子高齢化による人口減少が進む中、2014 年春に日本創生会議から人口減少問題が取り上げられ、福井県の人口も 80 万人どころか、昨年 7 月には 79 万人を割るに至った。

福井県は学力、体力が日本一と言われながら、これらの優秀な学生が高校卒業後、県外に流出し、その 3 割以下しか県内に戻ってこないという問題に直面しながら、なかなかその解決の糸口がつかめないでいるのが現状である。

福井商工会議所青年部、福井青年会議所、福井経済同友会は、それぞれ小学生から高校生へのキャリア教育を通じて、福井県の産業と働くことの意味を伝えてきたが、抜本的な解決方法を見出せずに今日に至っている。

我々は、人口減少問題を目の前にし、これまでの活動を振り返り、如何に人口減少を食い止め、地域創生を実現するかを平成 25 年度から検討してきた。

その結果、地域ぐるみのキャリア教育を通じて、若者が地域産業と郷土に関する正しい知識と更には職業観を身に着け、高い志と郷土愛を持ち、国際的に活躍する一方、ふるさと福井の国際的な企業や地場産業への U・I ターン希望者を一人でも多く創り出すことが、福井県の人口減少の歯止めの一助になり、地域創生に結びつくと考え。

これを実現するに当たっては、小学生から大学生に至るタテの流れと、個々の経済団体の枠を超えたヨコの繋がりを結び付けて、マッチング機能を高め、キャリア教育を統合的にコントロールする機関の必要性を認識するに至った。

即ち、小中高大のタテの壁を越え、産学官の横の壁を越える統合的なキャリア教育は、U ターンを促すために、小学生から取り組むべき教育であり、人口減少に伴う財政負担をも軽減できる効率的、効果的な方法であり、これを実現するためには、マッチング機関の設立により地域ぐるみのキャリア教育が必要であると考え、今回の提言に至った。

I 現状認識

平成 23 年 9 月に発表された福井県教育振興基本計画や平成 26 年 10 月より再開された福井県経済新戦略推進本部会議において、キャリア教育の充実、推進による産業人材の育成が重要課題として掲げられている。

キャリア教育は、学校だけで推進できるものではなく、企業を含めた地域社会全体の積極的な取り組みが不可欠であり、地域によって大きな温度差ができています。福井県は学力、体力では全国的にトップクラスの成績を収めていることはつとに知られています。キャリア教育力の面でも地域社会とともに各経済団体や企業が革新的な活動を行うなど「ポテンシャルは相当高いものがある」と県外の有識者は指摘する。

しかし現在は、それらの活動がバラバラに行われており規模も小さい為、その認知度は低い。このような状況を聞き取り調査したものを、付属資料①「キャリア教育、UIターン促進 相関関係図」にまとめた。

1. 従来型のキャリア教育

(1) 学校が取り組むキャリア教育の現状

① 小学校のキャリア教育

福井県の小中学校では、生活科、総合、社会の学習時間を活用して、職場見学を実施している学校が年々増加している。(平成 25 年度の福井市内 50 校中 40 校実施)

また、小学校 4 年生から中学校 3 年生まで『私の夢カルテ』(付属資料②「私の夢カルテ」)を継続して活用し、小学校段階から夢や目標を持ち、挑戦しようとする意欲を育成している。

※「私の夢カルテ」: 児童生徒が 1 年間の学習や活動を振り返ることで、自分の夢や目標を確認し、夢に向かって挑戦する態度を育成する書き込みノート式ツール。

(付属資料②「私の夢カルテ」)

② 中学校のキャリア教育

全国的にも最も足並みが揃っているのが、中学校のキャリア教育である。例えば、福井市では全 23 校がキャリア教育年間指導計画を策定している。職場体験学習がその中心であり、文部科学省は 5 日間の実施を奨励しているが、現状は中学校 2 年生で 3 日間の職場体験学習が主流となっている。

県内の中学校を振り返ると、1、2 年生時に各々 2 日間ずつ実施している中学校や南越前町のように、地域の中学校と企業が連携をして 5 日間実施している例もみられる。

共通の問題点としては、職場体験受入事業所や企業の職種が小売業やサービス業に偏

っていると一般的には言われている。これは受入先の開拓が学校の先生やPTAの知り合いなどに任されることによって生じている。即ち、校区内の小規模事業所のツテを頼らざるを得ないことが原因であると思われる。製造業、建築業、IT、報道機関などでの職場体験を希望する生徒が多数見受けられるものの、残念ながらそれらのほとんどは実現できていない。

また、受け入れ事業所や企業側も研究・工夫を凝らして生徒の成長を促すというプログラムを用意していない場合も散見され、中学校 2 年生の職場体験学習は、殆どが現場での単純作業の繰り返しのよう内容となっており、質的なレベル向上が望まれる。

③高校のキャリア教育

高校は学校によって大きな温度差がある。福井経済同友会では毎年 2 月に福井県高等学校教頭・副校長会との懇談会で、ここ数年この問題を話し合ってきた。学校の種別によってもキャリア教育に対する捉え方が異なっている。

- ・普通科グループ(高志、藤島、羽水、武生など)

受験対策のために、キャリア教育に十分な時間を割けられないため、卒業生をはじめとする社会人の出前授業のみになっている場合が多い。

- ・職業系グループ(福商、農林、足羽、武商など)

職場体験を有効活用している例が多い。生徒の視野が広がるとの声もある一方、職場体験受入れ企業の開拓に苦勞している学校が多い。また 3 日間は実施できても、長期間の受け入れには難色を示す企業が多く、開拓に苦勞している。現在は 3 日間実施が主流であるが、5 日間を望む声もある。

更に、都会のようにアルバイトを解禁するべきだという意見もある。

- ・定時制・特別支援グループ(定時制、特別支援学校など)

職業を持った生徒が多く、キャリア教育の必要性そのものの是非を問う意見がある一方、ハンディキャップを抱えている生徒に対しては、キャリア教育そのものの難しさを訴えるなど個人差が大きい。更に、学校に来てもらえるなら、歓迎したいという意見もある。

④大学のキャリア教育

キャリア教育体制を整え、企業相談会等も活発に実施されている。インターンシップ制度も多彩であり、短期、中期、長期のプログラムがある。県内企業も学生の獲得に繋がりやすい大学生の受け入れには積極的である。一方、単位の取得を目的とする学生の形式的インターンシップの受け入れには当然対応が鈍くなる。

中学校、高校と同様に大学の先生方には、「インターンシップは企業頼り、度重なるお願いの上でやっと受け入れてもらえる」という意識は相当根強く定着しており、改善が求められている。

(2) 経済界ニーズとの乖離と離職率の高さ

卒業後3年以内の離職率が、中卒の場合7割、高卒の場合5割、大卒の場合3割とされていることから命名された「七五三問題」は学校、経済界いずれの側にとっても、忌々しき問題である。

採用しても、ようやく慣れる頃に退職してしまう。その理由は多くの場合が、コミュニケーション問題と言われている。即ち、パソコンゲーム、携帯電話及びスマホなどの使用によって、対人会話が減少し、若者のコミュニケーション能力は以前と比べて低下していると言われていたのに加え、新入社員を指導し、悩みを聞く役割を担う中堅若手社員も、後輩の世話をする余裕がなくなっていることもそれに拍車をかけている。

経済界には、コミュニケーション能力の高い学生に対するニーズが高いが、学校側も学習指導要領と受験競争、偏差値偏重教育の中、先生方が業務に追われるあまり、結果的に経済界のニーズにマッチしなくなっているという現状があると思われる。

2. 各経済団体の試み

(1) アントレ・キッズ 福井商工会議所青年部

(対象: 福井市内小学校)

高校卒業後県外へ流出した学生の3割弱しか県内に戻ってこないというU・Iターンが少ない現状に危機感をもち、幼少の段階から地域の仕事に対する理解をし、地元福井で誇りを持って仕事をしている大人たちに魅力を感じてもらうために、小学校への出前授業を行っている。

福井県の企業に魅力がないと、子供達は将来県外の企業に行ってしまうため、企業人が熱い情熱と愛を持って子供たちに接し、全力で伝える事が重要である。その中で子供たちが経験したことのない未知なる体験を通じ、夢を築(気づ)いて欲しいと願っている。

現状では、各小学校より個別に福井商工会議所青年部事務局に開催依頼の電話があり、その都度担当委員長が学校側と打ち合わせを行っているが、一部の学校に偏っているなど広がりには課題もある。また、その一方でPTA主催の開催など徐々に広がりも見せており、今後の見通しも明るくニーズは広がっていると確信している。なお、福井市の中心市街地活性化の一環として他団体と協働で形を変えた「えきまえアントレ・キッズ」も実施している。



(2)地域の担い手づくりプログラム、ちからプログラム 福井青年会議所

(対象:福井市内小中学校)

地域の担い手づくりプログラムは、11年に渡る実績があり、学校からは子供たちの成長に、ゲストティーチャーからは仕事を見つめ直し、自らの成長になると、高い評価を受けている。子供たちに働くことの喜び、熱意、必要な知識、夢を伝えることで、学びへの意欲を高めることにも寄与している。実施校数も増加傾向にあり、他団体へのハンズオフを視野に入れ、より多くの学校と子供たちにプログラムを学んで成長してもらうための活動を行っている。

また、ちからプログラムは、福井県の小・中学生は学力・体力ともに全国でも高水準であるが、その基礎的な能力に加え、総合的な「生きる力」を磨き上げ社会的能力を開発することを目指している。まだ実施して3年ということもあり、各小中学校へのPRに時間を取られ、実施校の増加が進んでいないが、先生や保護者からも、子供たちの言葉遣いや意識が変わったとの評価があり、より多くの学校でのプログラム実施を目指している。



(3)福井県高等学校教頭・副校長会との懇談会 福井経済同友会

福井経済同友会では、毎年2月に福井県高等学校教頭・副校長会との懇談会を行ってきた。最近4年間はテーマをキャリア教育に絞り、100名程度の参加者で、分科会や全体会議の形式により様々な角度からの議論を行ってきた。

毎年議論を重ねる中で、下記のような意見に集約されてきている。

- ・職場体験学習は有意義であり、期間をもう少し長くするべきである。
- ・企業や地域との連携、接点を多くして活発な交流をするべきである。
- ・第三者機関による調整が不可欠である。
- ・学校、家庭、企業が共通意識を持てるような指針をまとめてほしい。



(4) ボランティアプロフェッサー制度 福井経済同友会

本制度は、福井経済同友会会員である企業経営者が自ら登録し、大学、短期大学、工業高等専門学校、高等学校などの要請に従って講師を派遣し、講義することを目的として、平成 13 年度から実施してきたものである。

企業経営者から直接、具体的な事業内容や仕事の内容、企業が求める人材や業界での位置付け、今後の展望など業界の生の情報を聴けるものとなっている。

このことは、学生・生徒にとっても非常に有意義なものであり、それぞれの職業観や職業意識の形成を促進し、適切な職業選択や円滑な就職活動準備の支援にもなっている、意義のある活動である。

また最近では、地元企業への U ターン促進などや教育現場の先生方も含めた、地元産業界の理解への要請にも応えるものとなっている。

派遣実績は、平成 22 年度から平成 26 年度の 5 年間で 80 名である。

(5) 高志高校スーパーグローバルハイスクールとの連携 福井経済同友会

福井県立高志高校は、平成 26 年度より文部科学省の『スーパーグローバルハイスクール (SGH)』事業の指定校となっている。

そして、その SGH 事業の構想は、国際社会および地域社会のリーダーを育成していこうとするもので、高志高校は、成長を続ける東アジアの活力を取り込むとともに、東アジアに貢献し東アジアと共に成長の道を歩み、希望ある社会を構築していくことを学問の基本構想として、国際化を進める大学・グローバル企業・NPO 等と連携して実施されていくものである。

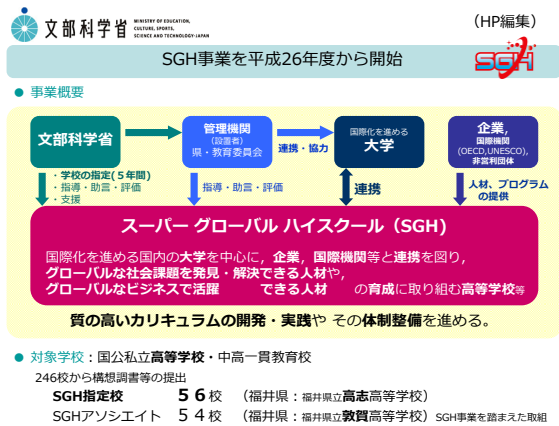
すでに、国際化に重点を置いた大学との連携が取られており、地元では福井大学、福井県立大学との連携授業が実施される予定である。さらに、グローバル探究を深めるためにもグローバル企業との連携は重要であり、東アジアに進出している地元企業への現地研修をはじめ、生徒の課題研究を支援するうえで、福井経済同友会への連携が予定されている。

高志高校の SGH 構想は、グローバルな視野で新しい分野にチャレンジし、社会にイノベーションを起こす人材の育成であり、将来の福井県の企業・地域での活躍を期待し、当会は

これと連携・協力していく所存である。

～生徒の SGH 志望理由～

- ・日本の良さをもっと海外へ発信できる人材になりたいと思ったから。
- ・英語を使って、より多くの人と意見を交わしたいから。等々



(6) 福井県インターンシップ 福井県・ふくいジョブカフェ・福井県経営者協会

大学生のインターンシップ制度は、平成 14 年度より厚生労働省からの委託により福井県経営者協会が産学官連携の推進協議会を設置しスタート、平成 22 年度より福井県の事業に移行し、引き続き福井県経営者協会が受託実施している。

全国でも大学生を対象にした地域インターンシップが実施されているが、そのほとんどは受入学生を企業側が選考する形式を取っている中で、福井県では、学生の希望を中心に大学での専攻などを勘案して受入企業とのマッチングを行うことで、より多くの学生に就業体験の機会を提供する仕組みを取っている。

県外大学とも連携して、県外に進学した本県出身学生へのインターンシップ参加も呼びかけ、県外大学生が参加者全体の 4 割を占めるまでに増加し、同時に就業体験に参加した県内大学生への刺激となっている。

(7) 福井市教育委員会と福井商工会議所青年部、福井青年会議所、福井経済同友会のキャリア教育での連携

我々はキャリア教育を通じて、「学力・体力日本一」の称号を持つ福井の将来を担う若者に「なぜ勉強するのか」「なぜ働くのか」それは「ふるさと福井が発展するため」そのような「志」を醸成することが必要との共通認識を持つに至った。

福井市内中学生の職場体験学習を企業側が積極的に受け入れることが不可欠という共通認識の下、平成 25 年度より福井市教育委員会と福井商工会議所青年部、福井青年会議所、福井経済同友会が連携した以下のような取り組みをしている。

- ① 受入れ企業が工夫を凝らした研修内容を記したエントリーシート(P13.P14 参照)を提出し、福井市教育委員会がそれを取りまとめ、福井市内の中学校に配布する。
- ② 各中学校では従来の職場体験先である近所のお店屋さんなどの先生やPTAのつながり以外の企業情報が入手できることで、量的にも質的にも恩恵を受け、特定企業に対して希望日や希望人数など具体的な要望を福井市教育委員会に提出。
- ③ 福井市教育委員会は各中学校から集まった希望と企業の諸条件を整理して生徒と企業のマッチングを行う。
- ④ 平成 26 年度では、福井市の中学生約 2,500 人のうち 31 社 156 人がこのマッチングを利用し職場体験学習を実施した。希望生徒数は当初約 300 名であった。この生徒たちは、企業の協力も得ながら報告シート(P15 参照)を作成しており、意義深い職場体験だったことが伺える。

平成 25 年度の第 3 回ふくいキャリア教育フォーラムでは、福井市の各中学校・教育関係者、父兄、各経済団体が参加する中、従来型の職場体験学習(エントリーシートなし)を行なった生徒と、エントリーシートを利用した職場体験を行なった生徒により、それぞれ報告がなされた。

従来型の職場体験学習を行った生徒から、「エントリーシートを活用して行った内容が羨ましい」との意見が出され、会場に波紋が広がるなど、エントリーシートを活用した職場体験学習の有用性が浮き彫りとなった。

Ⅱ 本来あるべきキャリア教育の姿

中央教育審議会答申が示すキャリア教育では、教育委員会は、知事・市町村長部局と協力して、縦横の連携の機能を持った組織を設けるなど、リーダーシップを発揮することを期待されている。

キャリア教育は、現場の学校だけではなし得ることは困難であり、地域社会とりわけ企業の協力が必須となる。福井県では各経済団体が既に様々な活動を行っているが、次のような問題を抱えている。

- 活動の範囲が、一部の企業、学校、生徒に留まっており、全県の生徒が機会平等に受けられるという状態からは程遠い。
- 学校現場は生徒と企業のマッチングで苦勞し、小規模にバラバラに行われPDCAを回せる状況にない。
- 地元産業界には、優秀な人材の採用ニーズがあっても、現実には充足されていない。
- キャリア教育が学生の職業観を醸成し、離職率の低下をもたらす結果となっていない。
- Uターンの増加に結びついていない。

日本各地を見渡すと、県市町の地域ぐるみで一体となったキャリア教育を推進している事例では、「行政トップの鶴の一声があった」とは文部科学省のキャリア教育の専門家の指摘である。

これまで述べてきたことをまとめると、本来あるべきキャリア教育の姿は、学校、家庭、企業が地域ぐるみのキャリア教育システムを構築することである。

小学校において郷土歴史、地域産業などを教えると同時に、職業観を植え付ける職業教育、職場見学、中学校、高校における職場体験学習や企業人による授業等が社会システムにより一元管理され、統合的、平等に生徒に与えられるべきである。

地域ぐるみのキャリア教育システムの下で成長した学生が、職業観を醸成しながら成長し、高校や大学卒業後には、郷土愛と志を持ちながら海外などで国際的に活躍する一方、ふろさと福井へUターンしながらも、国際的な福井企業や地場産業で活躍するようになることを期待してやまない。

このことによって、人口減少下における福井の創生にいくらかでも役立つ、若者の育成とUターンの増加が可能となる。

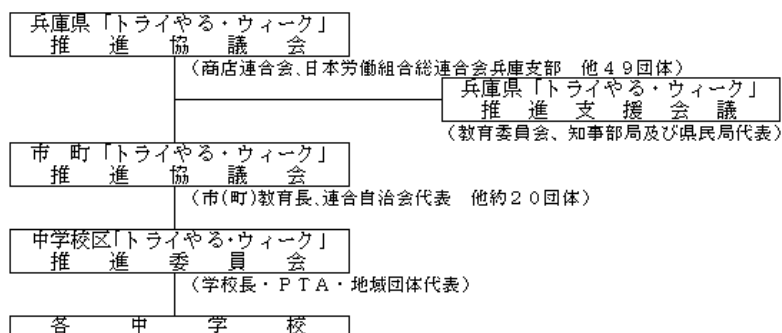
このような活動に行政も補助金などで支援をするような制度ができるとさらに加速し、このような活動を経験した学生の中から本気でその企業への就職を目指すケースがでてくるであろう。

そうすることでインターンシップ制度も生き、その企業のことをよく理解してから入社することで現在38%と発表される入社後3年以内の離職率も低下するという好循環が生まれるというような展開が理想の姿であろう。

【参考】 他県・市の取り組み事例

①兵庫県「トライやる・ウィーク」推進協議会

兵庫県が県内の中学2年生を対象として実施している職場体験「トライやる・ウィーク」を推進するため、教育委員会が中心となって設置している運営機関。「トライやる・ウィーク」は、一週間、中学2年生が職場体験などを通して地域について学び「生きる力」を育むことを目的としている。

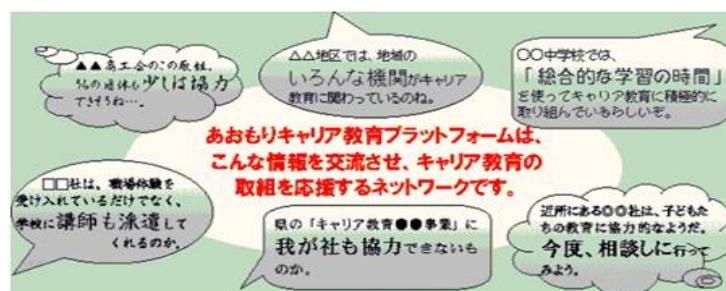


(文部科学省ホームページを引用)

②青森県 あおもりキャリア教育プラットフォーム

青森県が地域ぐるみのキャリア教育を推進するために設置している機関。「あおもりキャリア教育プラットフォーム」は各種団体、企業、学校等で組織され、事務局を青森県企画政策部人づくり戦略チームに置き運営されている。

青森県 あおもりキャリア教育プラットフォーム

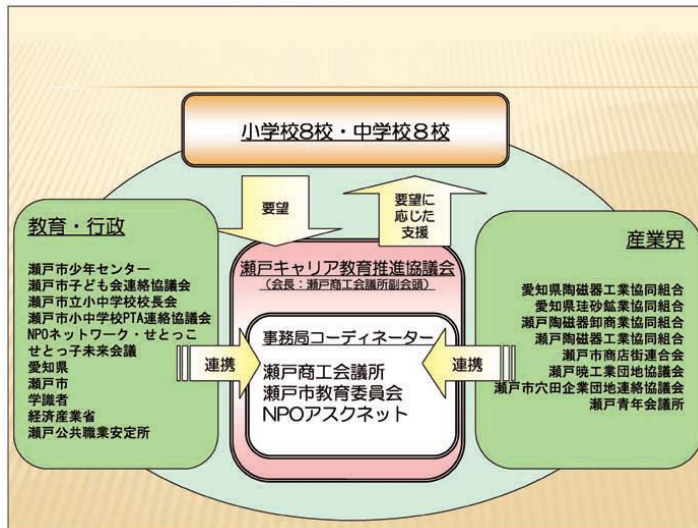


13

(青森県ホームページを引用)

③瀬戸市キャリア教育推進協議会

「瀬戸商工会議所」「瀬戸市教育委員会」「NPO法人アクスネット」が中核となり、瀬戸市内の小中学生を対象としたキャリア教育を推進している機関。「瀬戸商工会議所」「瀬戸市」の予算を得て、「瀬戸商工会議所」に専門のコーディネーターを置いて運営している。



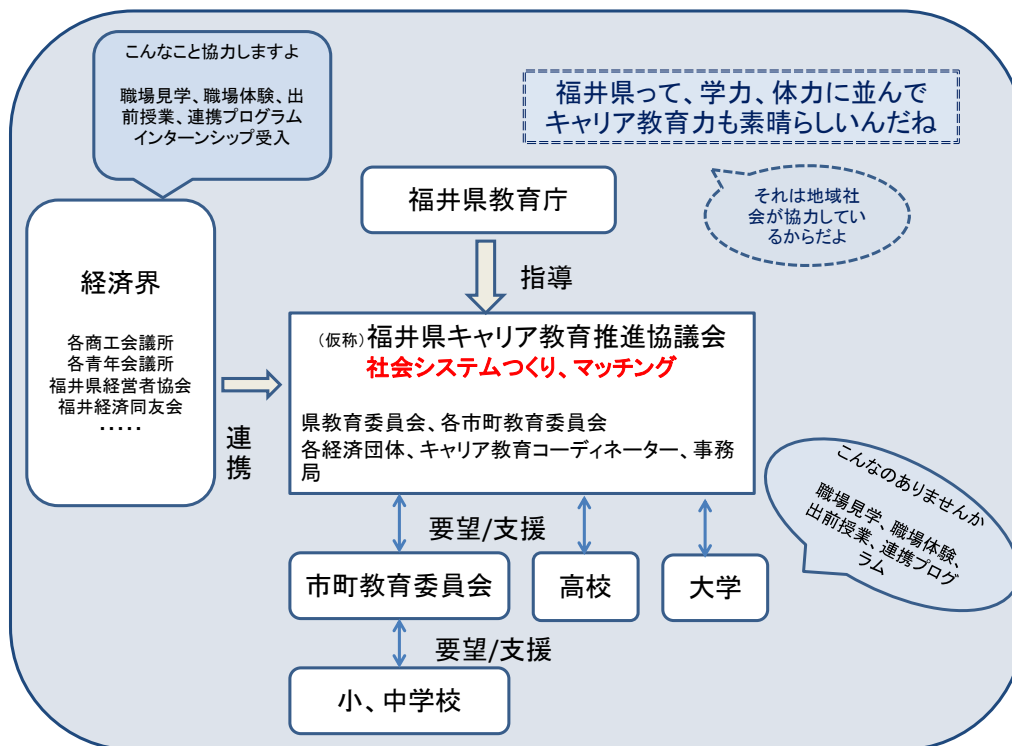
(瀬戸商工会議所ホームページを引用)

Ⅲ 提言

提言1. 福井県主導による「福井県キャリア教育推進協議会」(仮称)の設置

地方創生はキャリア教育からと考える。福井型 18 年教育実現の為に、キャリア教育について小学校から大学まで一貫通貫のマインドを持ち、トータルデザインする指導力が必要不可欠である。

現在各経済団体が行っている活動をその部分に留めることなく、各学校の要望を聞きながら各種プログラムを、年代的にも(タテ)地域的にも(ヨコ)に広げていくことのできる社会システムづくりとマッチングを行う「福井県キャリア教育推進協議会」(仮称)の設置を求めたい。



各学校や経済団体や特定企業単独の努力では限界があり、当県で取り組んでいる他都道府県に見られないような連携活動も一部に留まっている。「福井県キャリア教育推進協議会」(仮称)が設置され、これら諸問題が解決され、キャリア教育においても、福井県は全国モデルとなる先進地域になることは、福井県のみならず全国に対して多大な貢献をすることにも繋がる。

「アントレ・キッズ」「地域の担い手づくりプログラム」「職場体験学習」「出前授業」「インターンシップ制度」など、その学校の状況に応じた様々なキャリア教育が施され、各経済団体は啓蒙活動を行いつつ協力していくことで、県内全体の気運の盛り上がりを感じながら、団体に属さない企業も参加してくる形を期待したい。

【資料】福井市中学校職場体験学習 エントリーシート

《平成 25 年度版》

企業が 3 日間の職場体験プログラムを練り、写真付きで作成したエントリーシートが使われた。

中学校社会体験学習 受入企業エントリーシート

企業・団体の概要			申込日	平成	25 年	9 月	4 日
企業・団体名	〇〇〇〇						
所在地							
電 話				FAX			
業 種	ホテル業			担当者名 (所属部署)			
業務内容	宿泊施設・披露宴・祝賀会等宴会、飲食店舗(フレンチレストラン、日本料理、ラウンジなど)の運営						
受入条件	ホテル業務に興味がある方、明るく挨拶ができる方。						
							
ホテル全景		レストランでの調理		宴会場			
体験学習プログラム内容			※原則として3日間コースとする				
研修の概要	ホテル業務を通じた地域とのコミュニティ、貢献活動を知ってもらい、より身近なホテルを実体験の中から感じとっていただきたい また、様々な仕事のホテルにはあるということを知ってもらい、コミュニケーションの大切さを学んでいただく。						
研修場所	最寄駅	JR福井	駅	バス停	から徒歩	5	分
1日目のねらい ホテル全般の業務を知る			2日目のねらい			3日目のねらい	
時間	仕事内容	教育ねらい	時間	仕事内容	教育ねらい	時間	仕事内容
9:00	企業概要説明及びホテル内施設の見学		9:00	・客室清掃及びベッドメイク 実体験 ・従業員とのコミュニケーション ・お客様に喜ばれる商品づくり		9:00	・料飲及び宿泊部支配人との座談会
10:00			10:00			10:00	・積極的な意見交換 ・接客サービスにおける心構え ・創意工夫・改善の必要性
11:00	調理補助業務実体験(食器洗浄)	・従業員とのコミュニケーション ・衛生管理の意識向上	11:00			11:00	宴会場・準備セッティング
12:00			12:00		12:00	・時間管理の大切さを知る ・おもてなしの心を知る	
13:00	休憩・昼食		13:00	休憩・昼食	13:00	休憩・昼食	
14:00	調理補助業務実体験(食器洗浄)		14:00	施設点検作業、ホテル内清掃業務	14:00	宴会場・準備セッティング	
15:00	衛生管理講習		15:00	裏方的業務の大切さ、苦勞を知る		15:00	報告書作成
16:00			16:00	ホテルイベント企画立案	収益性を考えながら、自由な発想で考える	16:00	体験実習のまとめ
17:00			17:00			17:00	
研修のポイント							
働くことの楽しさと厳しさの両面を伝え、「職業」に対する夢や憧れを持てるようなお手伝いをしたい。							
敷居が高いと思われるホテルをいろいろな角度から見ることで親近感を持ってもらえるようにしたい。							
※客室及び宴会場の稼働状況により一部スケジュールが変更することもありますのでご了承ください。							

《平成 26 年度版》

企業側の負担を減らすことと、このプログラムに参加しない生徒への配慮から、簡便な内容に変更された。(25 年度版が良かったという意見も聞かれた)

福井市中学校職場体験活動受入エントリーシート

事業所名	〇〇〇〇		所属団体	☐ YEG ☐ JC ☒ 経済同友会 ☐ その他	
業務内容	繊維・金属・製紙を加工するときに使う薬剤の製造・販売。クリーニングで使われる薬剤の製造、販売。化粧品（シャンプー・トリートメント・スタイリング剤等）の製造、販売。				
所在地				最寄りの公共交通機関	
TEL		FAX		E-mail	
ご担当者氏名				所属・役職など	
受入可能時期	10月下旬～11月中旬			受入可能生徒数	中学2年生 3名まで
受入にあたっての要望など	モノづくりに興味のある生徒、理科（実験）や数学が好きor興味のある生徒、繊維や化粧品に興味のある生徒、〇〇〇〇に興味のある生徒				
体験の概要	【1日目】 AM：オリエンテーション ・会社ってどんなところか理解しよう ・”〇〇〇〇”って何をしている会社か理解しよう ・企業の研究開発の仕事は、どんなものか理解しよう PM：繊維製品を作る際に使う薬剤を使って、実験・評価してみよう 【2日目】 AM：化粧品を作っている工場に入って、モノづくりの作業体験をしよう PM：化粧品の研究室で研究開発業務を体験しよう				

【資料】 報告シート

～平成 25 年度と平成 26 年度は同じ書式を使用～

中学校職場体験学習 報告シート

実施日程	平成	26 年	10 月	23 日～	10 月	24 日 計	2 日間
学習者名	〇〇中学 2 年 組 氏名						
受入企業	企業・団体名 〇〇〇〇				業種 映画興行		
	研修場所 〇〇〇〇				担当者氏名・部署 映画興行部		
体験学習プログラム 実施内容				タイトル 映画館での仕事内容			
							
(写真コメント) ホップコーンの製造1				(写真コメント) ホップコーンの製造2			
				(写真コメント) 近日公開作品の掲出			
時間	仕事内容			時間	仕事内容		
9:30	ガイダンス、館内設備・映写システムラウンド			9:30	ガイダンス、発券機研修		
10:00	T12売店で店頭実習開始			10:00	T4T5売店で店頭実習		
11:00	POPコーンの製造			11:00	POPコーンの製造		
12:00	ドリンクの取扱、その後昼食40分			12:00	ドリンクの取扱、その後昼食40分		
13:00	上映終了後の場内清掃			13:00	上映終了後の場内清掃		
14:00	入場券もぎり実習、事務所で質疑応答			14:00	入場券もぎり実習、事務所で質疑応答		
15:00	14:45チャーターバス出発			15:00	14:45チャーターバス出発		
16:00				16:00			
17:00				17:00			
1日目の振り返り *接客がこんなにむずかしいとは思いませんでした。				2日目の振り返り *そうじやポスターの張り替えなどですごく疲れましたが、やりがいを感ぜられました。			
生徒の感想							
ぼくは、〇〇〇〇の職場体験をして、〇〇〇〇はすごく大変ですが、楽しくてやりがいのある仕事だと思いました。今回の							
職場体験で普段見れない映画館の中を見ることができて、さらに映画を好きになりました。今回学んだことを、これからも生かしていきたいと思います。							
親の感想:「仕事って楽しい?」と私に聞いてきました。「楽しいよ。勉強と同じで、やったらやった分結果が見えるからね!」と答え							
ました。この体験を少しでも理解できていたらいいと思います。「とても楽しかった」と言っていました。ありがとうございました。							
担任の感想: たった二日間で多くのことを体験することができ、充実していました。ありがとうございました。							
担当者コメント: 「いらっやいませ」、「ありがとうございました」の				私の提言: 少しでもお客様に映画を見てもらうため、映画の無料券を出すと思います。			
事前発声練習がよくできており、仕事の仕組みについて質問も							
積極的にだされました。職場に取り組む姿勢もよくできています。							

本人の感想や企業への提言、
保護者の感想(ニーズ)や担任の先生の感想なども記載されている。

提言2 企業のエントリーシートや生徒の報告シートに見える化

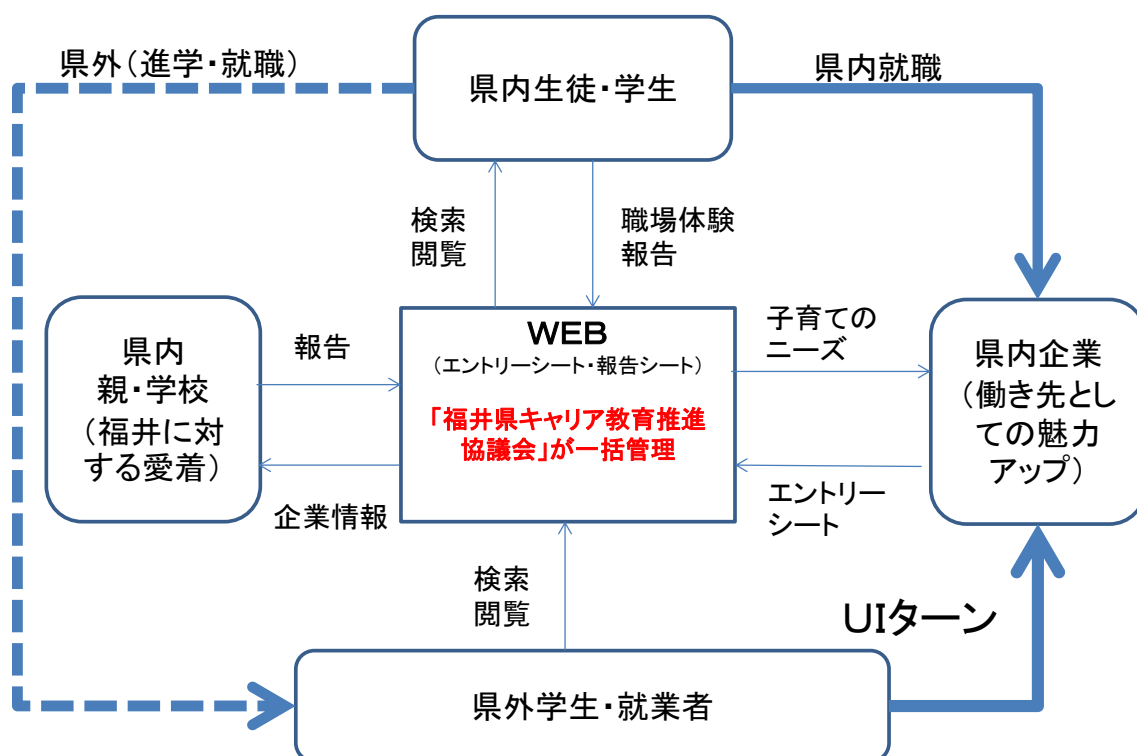
福井の子どもたちの学力・体力が日本でもトップクラスを誇る中、高校卒業後、福井を離れる若者や女性がふるさと福井へのUターンを目指すように導くための施策を実行に移していかなければならない。その為には、小中高校・大学での教育において福井の魅力・誇り・可能性を福井の子どもや学生に十分に教えるべきである。

現在、地元産業界においては、学生の夢と産業界のニーズや情報を紹介し、共有化・見える化するなど、学生の地元福井への就職やU・Iターンを促進する試みがみられる。

このような民間の情報やノウハウを生かしながら、キャリア教育においても伝統産業も含めた福井の産業や様々な地元企業の紹介を盛り込み、その魅力を早い段階から子どもたちが認識することができる仕組みづくりが必要である。

その為には、職場体験学習で有用性のあった「エントリーシート」「報告シート」を定着させ、福井県、市町やふるさと帰住センターホームページとリンクすることなど ICT を活用したデータベース化と一元的な管理が必要である。見える (WEB) 化により、同級生、同学年、先輩、後輩、他校の生徒の職場体験活動を疑似体験できることで、県内学生の県内就職や県外学生・就業者のU・Iターンの促進に繋がる好循環を生み出すことができる。

見える化 (WEB) することでの県内就業及びU・Iターンの促進に繋がる好循環



Ⅳ 結びに

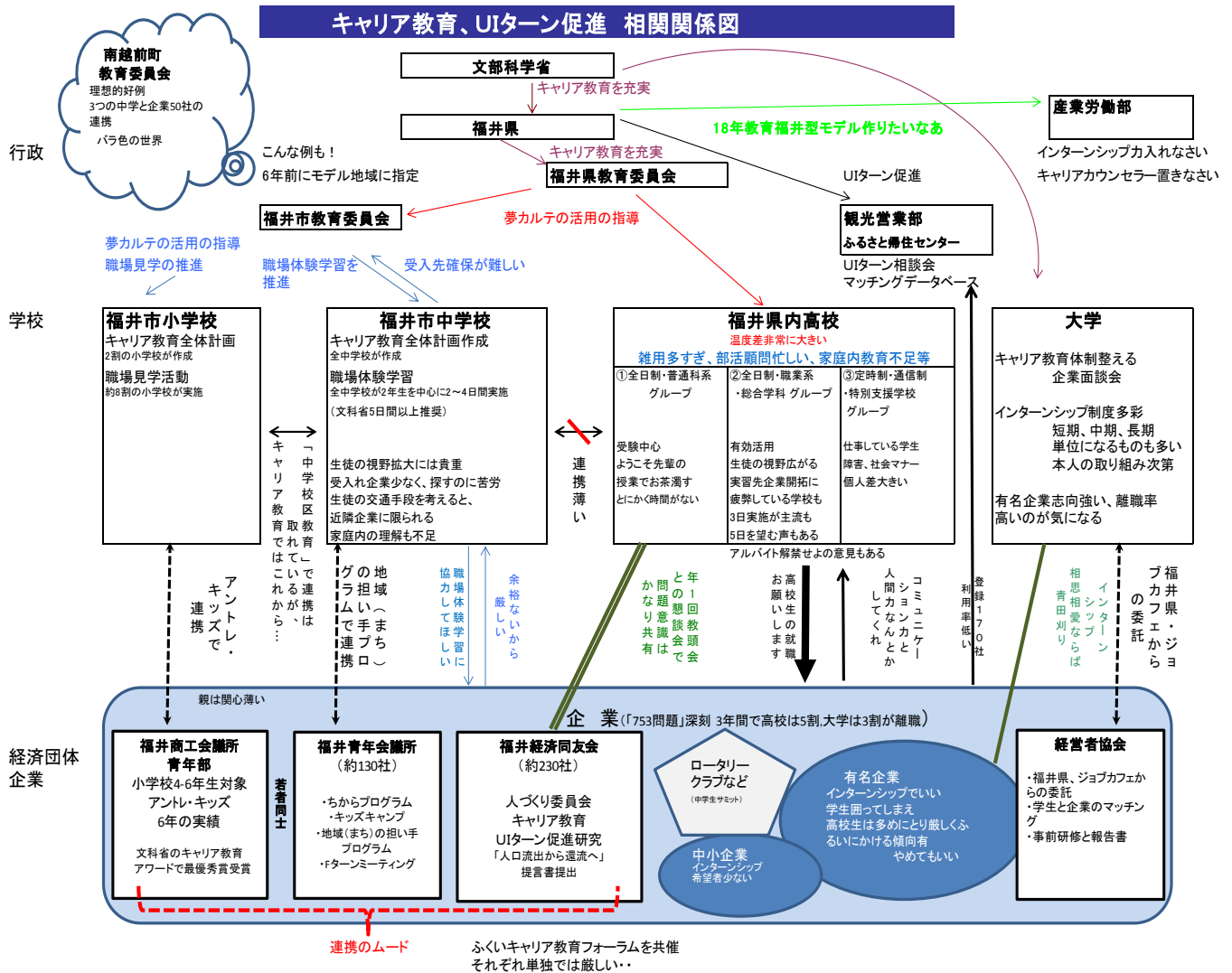
2015 年度中に 2016 年度から 5 年間を期間とする「県教育振興基本計画」を策定中であるが、その中に是非とも本提言の内容を盛り込むことで、福井県が学力、体力と並びキャリア教育力においても全国トップ級になることは間違いない。

「福井県キャリア教育推進協議会」(仮称)が設置された際には、福井商工会議所青年部、公益社団法人福井青年会議所、福井経済同友会は、そのメンバーとして参画し、理想的な社会システム、マッチングについても産官学一体となって研究することに労を惜しまない覚悟である。なぜならば、このような社会システムづくりこそが、今後の地方都市の活性化につながり、ひいては人口減少に歯止めがかかるポイントであると考えているからである。

付属資料

- ① キャリア教育、UIターン促進 相関関係図
- ② 私の夢カルテ

【付属資料】①キャリア教育、UIターン促進 相関関係図



【付属資料】② 私の夢カルテ

中学校版

私の夢カルテ

中学校

氏名

印刷は自分ででき、あなた自身の夢カルテにしましょう。
 福井県教育委員会

「私の夢カルテ」について

このカルテは、自分自身を振り返って、夢や目標に向かって挑戦していくためのものです。

使い方

中学校 1 年

3年間使います。

中学校 3 年

夢カルテで全体を振り返ろう!
自分が書いたものを見直し、活動全体を振り返り、夢カルテに自分の成長をまとめていきましょう。

活動の記録を残そう!
自分がやってきたこと、その時の考えや思いが書いてあるもの（随時ノートなど）をファイルにどんどん、とじていきましょう。

自分のファイルを用意しましょう

4つの力で大切なことは?
「自分にどんな力がついていたのか」
「小さな事でも思い出そう」

実践のあしあと

例) 委員会・部の仕事
「部の仕事が終わった時の気持ち」
「部の仕事でこんな事があった」
例) 各課大賞
「誰かのためにこんなことを考えた」・・・など

どんな活動にも意味があります！

夢につながる4つの力

社会の一員として自立するために、次のような力が大切です。
 この4つの観点から、どんな力がついていたのか、自分の活動をじっくり振り返り、私の夢カルテに残していきましょう。

みんなと協力する (チームワーク) ・相手の意見をていねいに聴く ・自分の意見をわかりやすく伝える ・ルールや約束を守る ・役割を果たす など (人間関係形成・社会形成能力)	自分を知る ・自分の可能性に自信をもつ「やればできる」 ・自分の長所や短所に気付く ・自分をコントロールする ・自分から行動する など (自己理解・自己管理能力)
課題に挑戦する (考え抜く) ・課題を見つけて分析する ・計画を立てて改善する ・創意工夫する ・あきらめないで努力する など (課題対応能力)	進路を選択する ・「働くこと」の意義がわかる ・必要な情報を活用する ・目標に向かって何をすべきか考える など (キャリアプランニング能力)

19

V 活動経過

提言に至るまでの福井商工会議所青年部、福井青年会議所、福井経済同友会の協働活動
(対象期間:平成 25 年 6 月～平成 27 年 2 月)

福井商工会議所青年部・福井青年会議所・福井経済同友会との意見交換会

日 時 平成 25 年 6 月 26 日(水)
会 場 織協ビル 805 号室
テーマ 各団体のキャリア教育に関する取り組みについて

ふくいキャリア教育フォーラム 実行委員会

日 時 平成 25 年 7 月 5 日(金)
会 場 福井開発ビル
議 題 ふくいキャリア教育フォーラムの実施について

ふくいキャリア教育フォーラム 実行委員会

日 時 平成 25 年 8 月 12 日(月)
会 場 福井商工会議所 会議室
議 題 ふくいキャリア教育フォーラム実施について

福井市キャリア教育連絡協議会

日 時 平成 25 年 8 月 23 日(金)
会 場 福井市役所 会議室
議 題 ふくいキャリア教育フォーラムの実施について

ふくいキャリア教育フォーラム 2013

日 時 平成 25 年 11 月 17 日(日)
会 場 福井県産業情報センター
参加者 200 名

福井市キャリア教育連絡協議会

日 時 平成 25 年 12 月 26 日(木)
会 場 福井市役所 会議室
議 題 平成 25 年度職場体験学習について

第7回福井県高等学校教頭会と経済人との懇談会

日 時 平成 26 年 2 月 26 日(水)
会 場 福井県生活学習館 ユー・アイふくい
テーマ 繋げる福井型キャリア教育の創造
参加者 105 名

福井市キャリア教育連絡協議会

日 時 平成 26 年 3 月 14 日(金)
会 場 福井市役所 会議室
テーマ 平成 26 年度職場体験学習について

福井商工会議所青年部・福井青年会議所・福井経済同友会との意見交換会

日 時 平成 26 年 4 月 11 日(金)
会 場 織協ビル 803 号室
議 題 今後のキャリア教育に関する取り組みについて

福井市キャリア教育連絡協議会

日 時 平成 26 年 5 月 1 日(木)
会 場 福井市役所 会議室
議 題 平成 26 年度職場体験学習について

福井市キャリア教育連絡協議会

日 時 平成 26 年 7 月 15 日(火)
会 場 福井市役所 会議室
議 題 中学生の職場体験学習の実施について

ふくいキャリア教育フォーラム実行委員会

日 時 平成 26 年 7 月 22 日(火)
会 場 福井商工会議所 会議室
議 題 ふくいキャリア教育フォーラムの開催について

福井市キャリア教育連絡協議会

日 時 平成 26 年 8 月 28 日(木)
会 場 福井市役所 会議室
議 題 中学生の職場体験学習の実施について

ふくいキャリア教育フォーラム実行委員会

日 時 平成 26 年 9 月 12 日(金)
会 場 福井商工会議所 会議室
議 題 ふくいキャリア教育フォーラムについて

ふくいキャリア教育フォーラム実行委員会

日 時 平成 26 年 10 月 10 日(金)
会 場 福井商工会議所 会議室
議 題 ふくいキャリア教育フォーラムについて

ふくいキャリア教育フォーラム実行委員会

日 時 平成 26 年 10 月 28 日(火)
会 場 福井商工会議所 会議室
議 題 ふくいキャリア教育フォーラムについて

ふくいキャリア教育フォーラム 2014

日 時 平成 26 年 11 月 8 日(土)
会 場 福井県立大学
テーマ 子供たちの地域に明るい未来を～ふくい型キャリア教育プログラム～
参加者 250 名

福井商工会議所青年部・福井青年会議所・福井経済同友会との意見交換会

日 時 平成 27 年 1 月 26 日(月)
会 場 株式会社大津屋 会議室
議 題 提言について

ふくいキャリア教育フォーラム実行委員会

日 時 平成 27 年 2 月 16 日(月)
会 場 福井商工会議所 会議室
議 題 ふくいキャリア教育フォーラムについて

第 8 回福井県高等学校教頭・副校長会と経済人との懇談会

日 時 平成 27 年 2 月 18 日(水)
会 場 福井県生活学習館 ユー・アイふくい
テーマ 福井創生にキャリア教育力を！マッチング機能を付加したキャリア教育システムの確立を！～学力、体力、志力の福井県へ～
参加者 95 名